



◇今回は、石原慧さん（名古屋市立大学経済学部）のレポートです！

## 今しかできないことを全力で

私は2014年に関高校を卒業し、この2018年に名古屋市立大学を卒業し春より新社会人となります。関高校での3年間では部活動に所属しない、いわゆる帰宅部で、大学生活では留学経験もなく他の皆さんのような輝かしい経験はありません。しかし縁あってこの執筆のお話をいただき、大学卒業を控えるタイミングとも相まってこれまでを振り返ってみます。

書き出しは高校生活から大学選択ですが、大学生生活を話の中心にすえます。関高校入学当初より国公立大学のみを志望していました。私の場合、部活動に所属しなかったのは、それを言い訳にしたくないのと、勉強に打ち込む環境を作る点で帰宅部が適切であると考えたからです。大学センター試験を経て自分が受験することができる大学の中から名市大を志望したのは、かねてより望んでいた地元金融機関への就職に実績があること、関心が強かった経済学を学ぶことができるからでした。

そして名市大に入学して、経済学を学んだ当初より思っていることがあります。それは、経済学の幅はとにもかくにも広いということです。別のOBの方が詳述して下さっているので割愛しますが、経済という単語を切り口に、どこまでも学問が枝分かれしていきます。就職を見すえて取りあえず経済学部へという言葉を目にしたことがありますが、入学後に興味関心をひかれる分野を見つけることができる点で、これは強ち間違っていないのかもしれない。



四国バイク旅 しまなみ海道で

## バイクの旅

次に主題の大学生時代に頑張ったことについてです。大学生生活の中でとても大切にしていた motto があります。それは「今しかできないことを全力で楽しむ」ことです。少し風紀の乱れた内容になるかもしれませんが、髪を明るい茶色に染めてみたり、友人と深夜にカラオケ店に入店し朝まで歌い続けたり、午前と午後で異なるアルバイトをしてみたり。例を上げだすと枚挙にいとまがなくなりそうなので、品のない例はここまでです。

これら以上に「今しかできない」と思い大切にしてきたことは、見知らぬところまで運転して訪ねることです。目的地が見知らぬ土地ですので、当然その道程も見知らぬ景色で、その見知らぬ景色を目に

することも楽しんでできました。私は自分の車を 4 年間所有することなく、この未知なる場所までの移動手段としてバイクを利用しました。バイクを推奨するわけではありませんが、車よりもまわりの景色がよく見える分、私の見知らぬ景色への探究心をより満たしてくれたのかもしれない。

しかしただ見知らぬところを訪ねただけでは能がありません。そこで私は道の駅スタンプを押すことを目的に追加しました。皆さんは岐阜県が道の駅数で全国 2 位を誇ることをご存知ですか。現在県内に津々浦々 55 箇所駅があり、今年 56 箇所目が開所します。その道の駅を全て自分でルート計画を立て、自分の運転で足を運んだことは私の学生生活の一つの財産です。その甲斐あってか県内の国道を示した地図を見た際には、ほとんど運転したことがあると思ひ、情景が浮かんできたことを覚えています。

これはただの手前味噌ですが、果たしてこの県内の道の駅全てをめぐったことが何かの役に立ったのかといいますと、答えはイエスです。冒頭にあるように私は岐阜県内での就職をもとより考えており、就職活動の際にこのエピソードがとても役に立ちました。学生時代に頑張ったこととして面接試験等で語ることができたのみならず、働かれています方々との雑談の話題としても重宝しました。途中でゲリラ豪雨に遭ったり、渋滞に巻き込まれた時は憂鬱な気持ちになりましたが、そんな時こそ「何のために、何を求めてこれをしているのか」原点回帰することで乗り越えることができましたと思います。

そして、岐阜県内のスタンプを押すことを早々に達成した私は、次なる目標として県内 15 箇所あるダムカードをもらえるダムをすべて訪ね、ダムカードの収集も終わりました。その後は立ち寄る道の駅のエリアを東海圏に広げてスタンプ押しつけました。以上が一つ目の見知らぬ景色を求めたエピソードになります。



### ダムカードのコレクション

二つ目は北海道に単身で乗り込んで、バイクに乗って道内を 1 周したことです。もともとバイクに関心が薄かった私ですが、バイクに乗るようになりバイクを介しても様々な方との出会いがありました。そんな方々に進められたのが北海道で、彼らが言うところでは北海道はライダーの聖地だそうです。海に山に景勝な景色があり、食べ物が美味しく、ただっ広く運転しやすい道路。色々お話を聞くうちに興味が湧き、極めつきは北海道に長期滞在して道内を満喫することができるのは、学生の「今のうちしかない」という言葉でした。

そこで私は、半年前から道程や持ち物等の準備を計画的に行い、フェリーを利用して 8 泊 9 日の行程で延べ 2500km の旅を楽しむことができました。海外へと足を踏み入れたことのない私ではありますが、この 9 日間の出来事は留学にも値するものであったと（勝手に）思っています。畑や海のみがひたすら広がる大地を走り、時には立ち止まって広大な自然を悠々と眺めた記憶は、一生脳裏から離れることはありません。食べ物は海鮮に肉に、新鮮なものを堪能できました。また、各訪問先での現地の方々とお話がで

きたことや宿泊先のライダーハウスで出会った方々とのお話も、一期一会の思い出です。

学生時代にしかできない「見知らぬ景色の探求」を三部に為すとすれば、最後のお話は弟とバイク二台で四国を1周したことです。またもや1周したお話で恐縮ではありますが、誰かと一緒に成し遂げたこと、その誰かが肉親であることに相違点があります。北海道1周は一人旅で、一人は融通がきくことが利点である反面、綺麗な景色や舌を巻く絶品を食しても一人で、共有することはできません。一人旅の楽しさのみを知って大学を卒業ではなく、誰かと共有できる楽しさも知ることができたので貴重な経験でした。この四国の旅も、兄弟そろって大学生である昨年しか果たすことができないとの思いが勝り、実現したものでした。

## 後輩のみなさんへのアドバイスとして

ここまでは、学生時代に頑張ったことでもありますが、同時に楽しんだことでもあります。頑張ったことでもあり、一時大変な思いをしたこととしては、資格の勉強があげられるかと思います。大学入学当初より、資格は持っていて困ることはないと考え、一年生の時から履歴書に載せることができる資格の取得に励みました。これまた手前味噌ではありますが、3種類ほど取得しました。当然のことながら、資格勉強や趣味、アルバイトを理由に学業をおろそかにするわけにもいかないので、単位を落とすことなく卒業を迎えられるのも良かったと思います。

話がまとまらなくなってきたので、ここまでの長文回顧録にお付き合いいただいたことに謝辞を述べるとともに、最後に読んで下さった方のうち後輩へ向けて、上からの物言いで失礼ですが2つアドバイスを送って文章を締めたいと思います。

一つ目は計画性を大切にしてほしいことです。年や学年を重ねるに比例して、追われる課題や宿題が増してきます。そんな時こそ「どの課題から先に取り組むべきか」計画を持って取り組むことで、課題をこなすのではなく課題から何かを吸収することができると思います。二つ目に常に何かしら考える癖を持つようにしてほしいことです。ぼうっと受動的でいても日々は過ぎていきます。しかし、一度きりしかない人生をこのように費やすのは、わずかどころか、とってももったいないです。これは勉強に限ったことではなく、何時にお風呂に入ろうかなど日常なことにも当てはまります。考えることから、主体的な毎日が生まれるものだと思って日々を送ってもらえれば、結果的に学習姿勢にも影響はあると思います。

皆様のご健勝とご多幸を祈り、文の結びとさせていただきます。



ひたすらまっすぐに 北海道の道路